

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報処理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	都市システム工学科		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	プリント資料を配布する。情報処理Iで用いたプログラミングの教科書を用いる。						
担当教員	大橋 健一						
到達目標							
(1)確率統計などを用いて現象を数式化するための基礎知識を有し、説明できる。 (2)種々の数値解析モデルのプログラムを構築することができる。 (3)データ処理技術及び情報伝達の理論を修得し、種々の構造物設計や理論解析などに応用できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		確率統計などを用いて現象を数式化するための基礎知識を十分に有し、説明できる。		確率統計などを用いて現象を数式化するための基礎知識を有し、説明できる。		確率統計などを用いて現象を数式化するための基礎知識を有し、説明できない。	
評価項目2		種々の数値解析モデルについて、合理的なプログラムを構築することができる。		種々の数値解析モデルのプログラムを構築することができる。		種々の数値解析モデルのプログラムを構築することができない。	
評価項目3		データ処理技術及び情報伝達の理論を十分に理解し、種々の構造物設計や理論解析などに応用できる。		データ処理技術及び情報伝達の理論を修得し、基本的な構造物設計や理論解析などに応用できる。		データ処理技術及び情報伝達の理論を修得し、基本的な構造物設計や理論解析などに応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D)							
教育方法等							
概要		コンピュータ社会と言われる現在、構造設計、水理解析及び都市計画などの都市システム工学の諸問題において、問題解決の手段としてコンピュータを用いた数値解析手法が多く取り入れられ、その重要度は増してきている。本講義は、2年次の情報処理Iに続く科目であり、コンピュータを道具として用い、種々の工学的解析を行うための基礎的な解析手法及びプログラミング手法を講義する。					
授業の進め方・方法		基本的事項について講義し、幾つかの課題に対してプログラミング演習を課す。					
注意点		数値計算の処理技法を講義で理解し、演習課題に対して自ら解析法を考え、解析プログラムを構築することが重要である。本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習および課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	講義の概要、プログラミングの復習			情報処理と数値計算法の概略を理解し、説明することができる。	
		2週	数値計算と誤差			計算処理するときの誤差を解説し、コンピュータが扱える数値の限界を確認することができる。	
		3週	数値表現の限界確認			コンピュータが扱える数値の限界を理解し、説明することができる。	
		4週	級数による関数の計算			組み込み関数を使わないで、級数などに展開して近似的に関数値を求めることができる。	
		5週	級数による関数の計算演習			三角関数や指数関数を近似的に計算し、コンピュータ内の組み込み関数と比較検討することができる。	
		6週	高次方程式の解法			高次方程式を数値計算的に解くアルゴリズムを解説し、計算することができる。	
		7週	高次方程式解法の演習I			高次方程式を解く2分法・はさみうち法のプログラムを作り、解を求めることができる。	
	4thQ	8週	中間試験				
		9週	高次方程式解法の演習II			ニュートン法で解くプログラムを作り、解を求めることができる。	
		10週	連立一次方程式解法(消去法)			多元連立一次方程式を解くガウスの消去法とガウスジョルダンの掃き出し法を説明することができる。	
		11週	連立一次方程式の解法(消去法)の演習			多元連立一次方程式を解くガウスジョルダン法でプログラムを作り、解を求めることができる。	
		12週	連立一次方程式解法(繰返し法)			間接的な方法である繰返し法について、これらの方法のアルゴリズムを説明することができる。	
		13週	固有値・固有ベクトルI			固有値・固有ベクトルを数値計算的に求めるべき乗法のアルゴリズムを説明することができる。	
		14週	固有値・固有ベクトルII			べき乗法のプログラムを作成し、固有値・固有ベクトルを求めることができる。	
		15週	固有値・固有ベクトルの演習			べき乗法のプログラムを作成し、固有値・固有ベクトルを求めることができる。	
16週	期末試験						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート課題	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	10	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0